

和名：火傷病菌

学名：*Erwinia amylovora*

英名：Fire blight

分布

イスラエル、イラン、トルコ、イタリア、英国、オランダ、ドイツ、フランス、ベルギー、ポーランド、米国、カナダ、グアテマラ、メキシコ、バミューダ諸島、エジプト、モロッコ、ニュージーランド等

宿主植物

リンゴ属、ナシ属、サンザシ属、ナナカマド属、カリン、ビワ等

病原体

グラム陰性、好気性の桿菌で複数の鞭毛を持つ。糖類を好み高濃度のしょ糖を添加した培地でも生育する。枝や幹のかいよう病斑で越冬した本細菌は、早春の気温上昇に伴い増殖し菌泥となって漏出する。これが第一次感染源となりミツバチ等の訪花昆虫や風雨によって花に運ばれ柱頭、蜜腺等で感染が生じる。同様に新梢（当年枝）、葉、幼果等にも感染する。感染した枝を通じて幹に侵入し、かいよう病斑を形成し越冬する。

病徴及び被害

花に感染すると全体が褐色になり萎れる。やがて花梗にも進展し花叢全体が枯死することが多い。新梢に感染すると萎れて褐変し、先端が下方に湾曲して「羊飼いの杖（Shepherd's crook）（図）」と呼ばれる特徴的な症状を示す。病斑には通常細菌泥の漏出を伴う。幼果に感染した場合は、果実の生長が止まり灰緑色で水浸状となり、やがてミイラ果となる。多くの場合、感染した果実は皮目から粘質で乳白色の細菌泥を漏出する。幹に感染した場合は、琥珀色の細菌泥漏出と亀裂を生じることが多い。病斑が主幹を取り巻くことにより樹全体が枯れることもある。



図 セイヨウナシ新梢の「羊飼いの杖」症状